

福岡県

農総試ニュース

第 4 4 号

2002. 1



イチゴの新品種「福岡S6号」



創立20周年記念式典



フラワーハンギングバスケット
(県農林水産まつりでの展示)



屋上緑化植物(マンネングサの仲間)

主な内容

○研究の紹介

- ・おいしい早生の水稲新品種「ちくし46号」を育成
- ・おいしくて色づきも良い大果系イチゴ新品種を育成
- ・促成イチゴ栽培におけるチリカブリダニを利用した害虫管理技術の確立
- ・フラワーハンギングバスケットの栽培技術の開発
- ・促成ナスの垂直仕立てによる作業姿勢の改善と収量アップ

○新しい研究の話題

- トピックス
- 交流行事
- 表彰

研究の紹介

おいしい早生の水稲新品種「ちくし46号」を育成

本県の水稲の品種構成は、極早生の「夢つくし」と中生の「ヒノヒカリ」が中心となっている。このことは、気象災害などの危険分散、共乾施設の効率的利用等を図る上で問題があり、両品種の中間の熟期である早生の良食味品種の育成が求められてきた。そこで、1992年に「夢つくし」と「中部88号」を交配、選抜と固定を重ねて、早生で食味と栽培特性が優れる水稲新品種「ちくし46号」を育成した。

本品種の特性を早生の「日本晴」と比較すると、出穂期と成熟期はほぼ同じであり、稈長と穂長はやや短く、倒伏し難く、収量と玄米品質はほぼ同じである。いもち病にはやや弱い。食味と関連が深いアミロース含有率は低く、「コシヒカリ」と比較しても1%程度低い。ごはんは光沢が優れ、味が良く、粘りが強く、おいしい。また、食味は年間を通して安定しており、ブレンド米にも適する。

本品種は、本県水稲の品種構成の適正化や良食味米の安定生産に大きく寄与できるものと期待している。

(農産研究所)

表 「ちくし46号」の生育特性

品種名	成熟期	稈長	穂数	倒伏	精玄米重	検査等級
	月.日	cm	本/m ²		kg/a	
ちくし46号	9.24	80	341	1.6	53.5	3.3
日本晴	9.24	82	336	2.4	51.5	3.3

注) 移植期:6月8日~11日。倒伏:0(無)~5(甚)。検査等級:1(1等上)~6(2等下)。

表 「ちくし46号」の食味評価

品種名	総合	外観	味	粘り
ちくし46号	+1.55	+0.92	+0.96	+1.50
ヒノヒカリ	+0.82	+0.69	+0.65	+0.71

注) 食味評価の基準は「日本晴」。数値が大きいほど評価が優れる。

おいしくて色づきも良い大果系イチゴ新品種を育成

イチゴ品種「とよのか」は、おいしくて香りが良いことから本県の主力品目として広く栽培されている。この品種は、葉が横に広がり果実を覆って光を遮るため、果実の色づきが悪くなる性質がある。色づきを良くするためには、葉を立ち上がらせ、果実に光が当たるようにする玉だし作業が必要である。この作業には多くの労力がかかることから、色づきの良い品種の育成が望まれていた。

そこで、葉が立ち、果実に光が当たりやすくなることで、色づきが良い性質を持ち、しかもおいしくて大きなイチゴの新品種「福岡S6号」と「福岡S7号」を育成した。

「福岡S6号」は、濃い赤色で丸みのある円錐形、「とよのか」と比べて甘味は同等でおいしく、果実の大きさは約1.2倍である。「福岡S7号」は、濃い赤色で円錐形、「とよのか」と比べて甘味や酸味はやや少ないが、味のバランスが良く、果実の大きさは約2倍と大果である。いずれも玉だしの必要がなく、省力的で色づきの良いおいしいイチゴ品種として期待される。(園芸研究所)

促成ナスの垂直仕立てによる作業姿勢の改善と収量アップ

促成ナスは、1株から伸ばした4本の主枝をV字状に広げ（以下、V字仕立法）、長期にわたる収穫期間中も株全体に光が当たるように仕立てられている。このV字仕立法は、通路の上部で主枝が交差するほか、果実や葉の多くが株の低い位置に着くので、腰をかがめた姿勢での作業を強いられるという問題点がある。

そこで、1株から伸ばした3本の主枝を畝方向に平行に誘引して、垂直に仕立てる方法（以下、垂直仕立法）を開発した。この方法では、V字仕立法と比べて腰をかがめるなど窮屈な姿勢での作業頻度が著しく減少し、整枝作業に要する時間も少なくて済む。また、主枝の伸長が早く、果実が着く側枝の本数が多くなるため、収量が10%、上物率が20%向上する。

以上のことから、垂直仕立法は、楽な姿勢で省力的に栽培管理ができ、促成ナスの収量や品質が向上する方法として有望である。 （園芸研究所）

表 主枝仕立法と収量および整枝作業時間と作業姿勢別頻度

仕立法	収量 (t/10a)	整枝作業時間 (hr/10a)	姿勢別頻度(%)		
			直立	前屈	しゃがみ
垂直仕立	18.5	620	79.0	20.6	0.4
V字仕立	16.7	665	56.2	19.5	24.3

注) 収量と整枝作業時間は、10月から6月まで

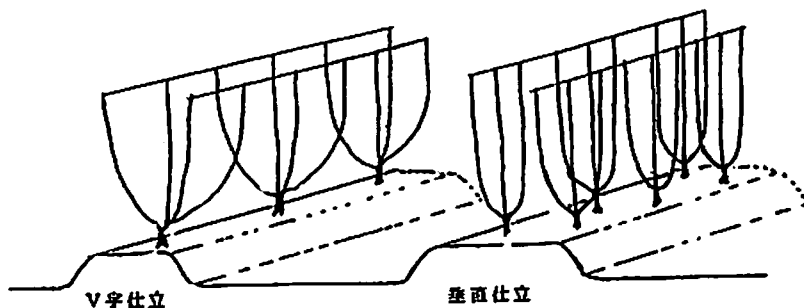


図 垂直仕立およびV字仕立ての樹形

注) V字仕立：1条植4本仕立、株間60cm。垂直仕立：2条植3本仕立、条間50cm、株間90cm。

促成イチゴ栽培におけるチリカブリダニを利用した害虫管理技術の確立

安全・安心な農作物の供給が重要となっており、できるだけ農薬に頼らない病虫害防除技術の開発が大きな課題となっている。そこで、福岡県の主要野菜の一つであるイチゴ栽培において、ハダニ類に対する捕食性天敵のチリカブリダニを利用した害虫管理技術を確立した。

現地における実証試験の結果、チリカブリダニを10月下旬、11月下旬、2月上旬に、10a当たり2,000頭放飼すると、ハダニ類の発生は4月下旬まで低く抑制され、また、3月下旬に追加放飼することにより効果が安定することが明らかとなった。一方、チリカブリダニを2月上旬から放飼した場合は、ハダニ類の発生を十分に抑制できなかった。これらの結果から、チリカブリダニを利用する際は、ハダニ類の発生密度が低い年内から定期的に放飼することが重要であることが明らかとなった。

以上のことを踏まえ、「促成栽培イチゴにおけるチリカブリダニ利用マニュアル」を作成した。本技術が、県イチゴ生産のさらなる振興に役立つことを期待している。(生産環境研究所)

表 チリカブリダニの放飼方法

9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月	
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
					▼			▼						▼			▼								
定植			マルチ張り	ビニル被覆	ミツバチ搬入			収穫開始																	収穫終了

注) ▼：放飼時期、放飼頭数：2,000頭/10a

フラワーハンギングバスケットの栽培技術の開発

本県では、平成12年度から「花あふれるふくおかの街推進事業」を開始し、街並みが花であふれる心豊かな地域づくりを進めている。この事業の中で、当時は、長期間かつ手軽に飾花できるように、ハンギングバスケットに適した花の選定や省力的な施肥方法およびかん水方法の開発に取り組んだ。

花の種類では、初夏から晩秋にかけては、ベゴニア・センパフローレンス、ペチュニア、インパチェンス、アメリカンブルー、ランタナ等が、秋から初夏にかけては、パンジー、ピオラ、キンギョソウ、クリサンセマム等が適し、これらにヘデラ、ダスティミラー等の葉物を組み合わせることで、色彩豊かなバスケットを長期間楽しむことができる。

バスケットに使用する用土は、保水性や通気性が良く、しかも、軽いことが重要であり、ピートモス、パーライト、バーミキュライトを2：1：1の割合で配合すると良い。また、100日程度肥効が持続する緩効性肥料を用いると、追肥の手間を省くことができる。さらに、タイマーや電磁弁、点滴かん水チューブを用いた簡易な自動かん水装置も開発した。これらの成果をもとに、久留米市や杷木町がモデル地区に指定され、「花あふれるふくおかの街」づくりがスタートした。

(園芸研究所)

新しい研究の話題

トマト黄化葉巻病の環境保全型防除技術開発研究開始

平成9年から11年にかけて、シルバーリーフコナジラミによって媒介される新しいウイルス病が本県を含む九州北部の促成栽培トマトに相次いで発生した。本病は、一旦感染すると被害が著しく、急速に蔓延する恐れがあるため、発生生態の解明や簡易で迅速な診断法の開発が求められている。

そこで、当场では抗血清等を利用した病原ウイルスの簡易な検出・診断技術、病原ウイルスならびに媒介虫の生態解明とそれに基づく防除技術の開発研究を開始した。

本研究は、国庫助成試験研究「先端技術等地域実用化研究促進事業（新技術型）」として、長崎県、熊本県との共同で平成15年度まで実施され、簡易かつ迅速な診断による蔓延防止、生態解明に基づく環境に優しい発病抑止、被害回避技術の確立が期待される。（生産環境研究所）

植物の新しい利用法「屋上緑化」用植物に関する研究を開始

ビルが建ち並ぶ都市部では、ヒートアイランド現象と呼ばれる恒常的な高温現象が問題となっている。ビルの屋上を緑で覆うことで、建物の温度変化を少なくしたり、憩いの空間を演出するなど、植物の新しい用途が注目され需要が増加している。屋上緑化には、マンネングサの仲間、乾燥や暑さ寒さに強いセダム属に属する植物がよく用いられている。その品種はヨーロッパからの導入種が中心であることから、本県の気候風土に適した品種の選定や利用技術の確立が重要となっている。

そこで、屋上緑化用品種の選定や大量増殖技術、省力的な栽培管理技術についての研究を開始した。（園芸研究所）

トピックス

創立20周年記念事業実施

当场は、昭和56年に農業総合試験場として発足して以来、本年で20周年を迎えた。この節目の年にあたり、これまでの試験研究の取り組みを振り返るとともに今後のさらなる発展を期して、去る11月10日に農業総合試験場創立20周年記念式典を、県農業大学校体育館において挙行了。国、県議会、県の各機関、市町村並びに農業関係団体等の代表等、約200名の出席を得て、盛会の内に式典を終えることができた。

併せて、今後の新たな試験研究の一步となるよう、この10年の試験研究の取り組みや成果などをまとめた「技術革新のあゆみ」を刊行した。

二条大麦品種「ほうしゅん」が指定品種として一般栽培へ

ビール大麦品種「ほうしゅん」は、当场で平成10年に育成し、同年秋播きから福岡県の準奨励品種に採用された。これまでは、「限定品種」として地域を限って栽培されてきたが、醸造適性が優れていることがビール業界から認められ、広く栽培が可能となる「指定品種」となった。これまでの品種より4日も早く成熟するので梅雨時期を迎える前に収穫でき、大麦縞萎縮病とうどんこ病に強く、収量も多い。本県では平成13年秋から一般栽培され、これからの麦作振興に大きく寄与できるものと期待している。（農産研究所）

小麦品種「イワイノダイチ」を県の準奨励品種に採用

「イワイノダイチ」は九州沖縄農研センターで育成された秋播型の小麦早生品種で、耐倒伏性や小麦萎縮病の抵抗性を備えた、めん用品種である。5月末に収穫でき、穂発芽しにくく収穫直前の雨害の回避が可能であり品質や収量の安定化が期待されることから、平成13年11月に本県の準奨励品種に採用された。普及に当たっては、小麦面積の46%を占める「チクゴイズミ」の一部に替え、一般平坦地～平坦肥沃地を対象として1,000haを目標に作付が計画されている。

(農産研究所)

表彰

表彰の種類	受賞期日	テーマ等	氏名	所属
職員表彰 (研究表彰)	13年11月30日	○夕方収穫「博多万能ねぎ」の予冷库利用による鮮度保持技術の確立	山下 純隆	生産環境研究所
	"	○ブドウ枝膨病をはじめとする主要病害の生態解明と防除対策の確立	梶谷 裕二	"
	"	○地域特産肉用鶏「はかた一番どり」の作出	津留崎正信 西尾 祐介	畜産課 畜産研究所

交流行事

ふれあいウィーク開催

本県は、11月を「フクオカ・サイエンスマンス（科学技術創造月間）」とし、青少年をはじめとする県民に科学への理解と関心を深めてもらうために数多くのふれあいの場を設けている。その一環として、当場は、従来の開催期間を大幅に拡大して、11月5日から10日までを「ふれあいウィーク」とし、各種催しを行った。催しの内、一般の見学希望者を野菜・花のほ場、果樹園や乳牛舎など試験研究の現場に案内する「わくわくドキドキ試験場探検デー」を5日から9日までの5日間、最新の研究成果を紹介するものしり館や、園芸相談コーナー、動物とのふれあい広場、いもほり体験などを行う「ふれあいデー」を最終日の10日に開催した。家族連れなど多数の来場者を得て、例年以上に盛況であった。

農総試ニュース NO. 44

平成14年1月21日

編集・発行 福岡県農業総合試験場

〒818-8549 福岡県筑紫野市大字吉木587

電話 092-924-2936 FAX 092-924-2981

ホームページURL <http://www.pref.fukuoka.jp/nosei/organ/farc/home3.htm>